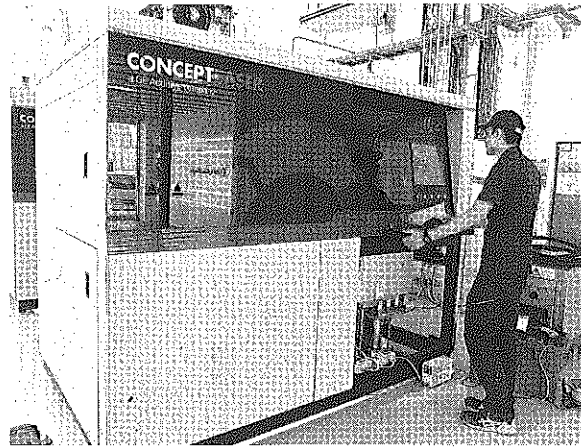


# ダイカスト金型積層造形

## 日本精機、3Dプリンター導入

【名古屋】日本精機（名古屋守山区、辻村正稔社長）は、金属3Dプリンターを導入し、アルミダイカスト金型への積層造形（AM）技術の適用を本格化する。金属3Dプリンター2台のほか5軸マシニングセンター（MC）、熱処理炉などと総額4億円を投資した。主力の自動車向けのほか、将来は航空・宇宙、医療関係などの異分野参入も視野に入れる。

## 複雑な内部機構提案



日本精機がグループ会社に導入した金属3Dプリンター

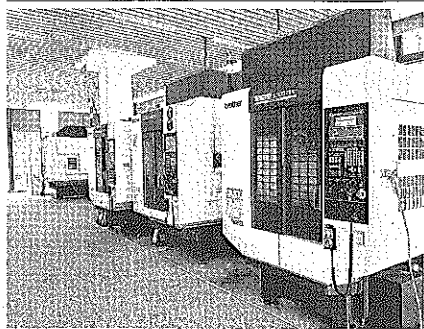
グループのツーリング・イノベーション（名古屋守山区）に金属3Dプリンターなどを導入。日本精機がAMによる金型技術革新、技術提案を発信し、ツーリング・イノベーションはAM専門の技術開発・製造拠点となる。

AM技術により、従来の工法では難しかった複雑な金型内部冷却機構が可能になる。日本精機は従来、マルエーシング鋼を使った金型入れ子を納入していた。AM装置導入を機に、大同特殊鋼製の金型用鋼材であるSKD61ダイス鋼系粉末SKD材に特化し提案していく。

積層造形金型は珍しい。装置導入以前は三菱商事テクノス（東京都港区）が実証試験などを担った。両社は業務提携協定を締結し今後、業界にAM技術の普及を促していく考え。

新規のAM事業では解析から設計、造形、熱処理、機械加工、検査までのすべての工程をグループ内で一貫して内製できるのが強み。熱解析ソフトウェアによる冷却効率の検証により、既存技術では難しかった機構も実現可能。「これまでにない発想で革新的な金型設計を提案し、顧客の設計領域から保全領域までトータルでサポートしていきたい」（松原雅人日本精機常務）としている。

## ブラザー、中国に新営業・技術拠点 工作機械拡販



ブラザーの技術支援拠点「ブラザーテクノロジセンター」を浙江寧波に写真。を浙江

【名古屋】ブラザー工業は中国の工作機械事業を強化するため、同国4カ所目のショールームを備えた営業・技術支援拠点「ブラザーテクノロジセンター」を浙江寧波に写真。を浙江

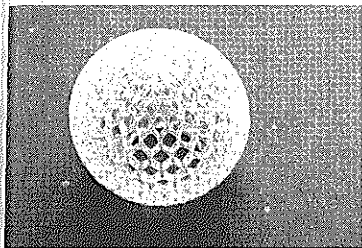
省寧波市にた。9月に移また同3カ所所を江蘇省無設した。同社軸30番手の小廻T機器部品で力。強化課同部品向けを中とする。寧波のテクノセンターは成を格上げして化した。延410平方メートルの露1平方。露機械や周辺自動化（Fタパネルなど40人を収容する）も備無業所はの従置。従来は拠点。特に車部への強化

## 3D造形試作室開放

### TKR、研究者・VBに

TKR（東京都大田区、太田聡社長）は、自社開発の3Dプリンター「SPACE A」をベンチャー企業にも開放し、研究開発の3Dプリンタ構造などを具現化する際に利用している。

RT（スペースアート）発掘点としての利用を



5分で造形した直径約2cmの網状ボール

が、利用の広がりを受け受託造形も本格展開する。大嶋英司シエアビジネス事業部3Dプリンター開発部長は「当社の技術力は高い。ベンチャー企業などが独自のアイデアを実現する足がかりになれば」と話す。

## 出番



## 成

とにコツコツと向き合も高める構え。う大切さを学んだ」と最近ではシム。ほとんを流す。